

令和7年11月14日

自然資本で再び輝ける新たな拠点へ ～大阪環状ベイエリア構想～

(一社)日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)

関西委員会委員長 矢ヶ部昌嗣

専務理事・事務局長 丸川裕之

関西は長く日本の都がおかれ、人や文化を受け入れてきたが、近年では人口の減少・流出や主力産業の国際競争力低下による国内での相対的地位の低下に直面している。

他方で今後「イノベーションの機運」が新たな変化の流れとしてみられ、特に大阪環状ベイエリアは人流・物流の大動脈、生物多様性の源、カーボンニュートラルの拠点としてのポテンシャルがある。

(一社)日本プロジェクト産業協議会 関西委員会は、万博後の関西、その中でも淡路島を含めた大阪環状ベイエリアに焦点を当て、「ネイチャーポジティブ」「ウェルビーイング」「スマートインフラネットワーク」の3つのキーワードの下に関西を一体化することが、地元の経済成長のみならず、我が国全体の発展も支えるものと考えている。

かかる認識のもと、具体的には6つの提言を行う。

【ネイチャーポジティブ】

提 言 1

水運振興を活かした親水機会拡大と施設整備

提 言 2

グリーントランスフォーメーション(GX)の推進

提 言 3

藻場の再生等、自然共生エリア拡大による環境改善

【ウェルビーイング】

提 言 4

ウェルビーイングによる分散型、フレキシブルな滞在施設の充実

【スマートインフラネットワーク】

提 言 5

湾岸道路を充実させた効率的・機能的な物流幹線の整備

提 言 6

脱炭素社会下での効率的・機能的な人流、物流の実現

以上